



平成18年12月期

第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年10月27日

上場会社名 サッポロホールディングス株式会社 上場取引所 東 札
 コード番号 2501 本社所在都道府県 東京都
 (URL <http://www.sapporoholdings.jp>)
 代表者 役職名 取締役社長 氏名 村上 隆男
 問合せ先責任者 役職名 取締役経営戦略部長 氏名 持田 佳行 TEL (03) 5423-7407

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (内容) その他有価証券については、9月末日現在の時価で評価しておりますが、減損処理は行っておりません。
 減価償却費については、年度見込額のうち第3四半期までの分を計上しております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有
 (内容) セグメント情報における事業のセグメント区分変更を行っております。
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有
 (内容) 連結(新規) 1社 (除外) 1社

2. 平成18年12月期第3四半期財務・業績の概況(平成18年1月1日～平成18年9月30日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

記載金額は百万円未満を切り捨てております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年12月期第3四半期	319,820	△4.5	3,913	△22.8	2,165	△17.5	418	△45.7
17年12月期第3四半期	334,983	△7.9	5,070	△71.5	2,624	△81.4	770	△92.2
(参考) 17年12月期	453,671		10,300		6,602		3,629	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
18年12月期第3四半期	1.14		0.96	
17年12月期第3四半期	2.17		1.92	
(参考) 17年12月期	10.20		9.18	

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
18年12月期第3四半期	528,733		107,037		20.2		293.10	
17年12月期第3四半期	544,465		95,797		17.6		269.89	
(参考) 17年12月期	563,845		111,410		19.8		305.00	

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年12月期第3四半期	33,338	△19,424	△32,627	6,033
17年12月期第3四半期	26,329	△21,432	△50,104	13,611
(参考) 17年12月期	39,077	△7,675	△65,533	24,748

[参考]

平成18年12月期の通期業績予想につきましては、平成18年8月4日に発表いたしました業績予想に変更ありません。

○添付資料

- ・ (要約) 四半期連結貸借対照表
- ・ (要約) 四半期連結損益計算書
- ・ 四半期連結剰余金計算書及び四半期連結株主資本等変動計算書
- ・ (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書
- ・ セグメント情報
- ・ 生産、受注及び販売の状況
- ・ 決算補足説明資料

平成18年12月期 第3四半期連結業績の概況

1. 第3四半期の概況

当第3四半期（平成18年1月1日から平成18年9月30日まで）における当社グループの連結業績は、不動産事業が堅調だった一方、酒類事業および飲料事業の売上数量が前年を下回り、コスト削減を計画通り着実に実行したものの、売上高3,198億円（前年同期比15.1億円、5%減）、営業利益39億円（前年同期比1.1億円、23%減益）経常利益2.1億円（前年同期比4億円、17%減益）となりました。

各セグメント別の概況につきましては、以下の通りです。

【酒類事業】

当期のビール事業は、ビール・発泡酒・新ジャンルを合計した総需要が前年同期比9.9%程度と推定される中、以下のようなマーケティング施策を展開しました。

「黒ラベル」は、原料にこだわる当社の姿勢と協働契約栽培訴求のフラッグシップ商品としてPRを行いましたが、売上数量の前年同期比は9.4%でした。「エビスビール」は、引き続き高いブランド力を維持し、売上数量は前年同期比10.2%となりました。エビスブランド全体での売上数量は、昨年発売した数量限定商品「エビス超長期熟成」の影響から、前年同期比9.8%となっております。また、本年9月に創業130周年を迎えることを記念し、原料にこだわる当社の姿勢を具現化したビール「畑から百三十年」を8月に数量限定発売し、好評を得ました。

輸入ビールの「ギネス」は、好調を継続しており、売上数量は前年同期比10.7%となりました。

発泡酒は、新ジャンルの影響を受けているものの、主力の「北海道生搾り」、5月に発売した「雫[生]」が好調に推移し、発泡酒合計の売上数量は前年同期比9.4%と、総需要を大きく上回ったと見られます。

当社が切り拓いた新ジャンル市場はますます競争が激化しており、各社新商品のトライアル需要の影響を受け、前年同期比7.6%となりましたが、主力の「ドラフトワン」は9月にリニューアル発売し、発売3日で100万函、同19日で200万函（いずれも大瓶換算）を突破する快調なスタートを切っています。

ビール・発泡酒・新ジャンル合計の売上数量は、前年同期比9.0%でした。

ワイン事業では、伸張著しい酸化防止剤無添加市場に健康機能をプラスした「ポリフェノール/有機酸たっぷり無添加ワイン」を3月に発売し、国産ワインの新たな柱へと育成を図っています。また、「グランポレール」は、第4回国産ワインコンクールで唯一4年連続金賞を受賞しました。輸入ワインでは、イエローテイルをはじめ、ベリンジャー、ラ・キューベ・ミティークなどのブランド強化を図っています。

以上により、国産・輸入ワインの合計売上数量は前年同期比10.1%となりました。

4月から参入した焼酎事業は、主力の「トライアングル」、「トライアングル・インディゴ」を中心に計画通り推移しています。新たに設立した楽丸酒造からの第一弾商品として、9月に麦焼酎「和ら麦」を発売し、本格焼酎にも参入しました。

以上の結果、ビール・発泡酒を初め、多くの商品の売上数量が概ね年初計画通りまたは計画以上に推移しましたが、新ジャンルの売上数量が計画を下回ったことが影響し、販売促進費の削減、製造原価等のコストダウンを着実に実行したものの、当第3四半期の酒類事業は、売上高2,386億円（前年同期比1.14億円、5%減）、営業利益5億円（前年同期比1.9億円、78%減益）となりました。

【飲料事業】

飲料市場は天候不順のため、緑茶・烏龍茶等無糖系飲料の出荷が前年割れとなり、当第3四半期の総需要は前年同期比9.8%程度と推定されます。

当社では成長戦略を描くため、中核ブランドの育成と成長ジャンルへの取り組みに更なる強化を図ってきました。

基軸ブランドである「恵比寿茶房」は、日経プラス1でのブラインドテストで「玉露入りお茶」が1

9品目中NO.1に輝くなど、品質の良さは消費者に認められておりますが、相次いで発売された他社新製品の影響を受け、微減となりました。

炭酸カテゴリーにおきましては、Ribbonブランドの新商品として「Ribbon シトロネン レモン搾り」や、国産果汁にこだわった「選りすぐり和の果実 信州産巨峰」など話題性のある商品を発売しました。

果汁カテゴリーでは、差別性のあるクランベリーを使用した「オーシャンズプレー クランベリーウォーター」を発売し、TVCMや首都圏 JR 駅構内での PR 活動を展開して、同カテゴリーでの新しいジャンルを確立しました。

以上の結果、当第3四半期の飲料事業は、売上高440億円（前年同期比44億円、9%減）、営業損失5億円（前年同期比2億円増益）となりました。

【外食事業】

当第3四半期の外食業界は、全業態合計の既存店売上の増加が3月から続いており、好調に推移しています。しかし、酒類売上比率の高い居酒屋業態では、店舗数が大幅に増加する一方で、既存店売上高の前年割れが拡大する傾向にあり、企業間競争が激しくなっています。

このような中で、当社外食事業は積極的な新規出店による売上の拡大と、既存店の業態転換や改装による活性化を推進しました。

7月以降の新規出店としては、「かこいや神田東口店」や「クーパーズ仙台国分町店」など3店舗を出店し、年初からのトータルでは9店舗を開店しました。また、広島駅ビル内の「ビヤレストラン銀座ライオン」を、「お食事・うま酒 HIROSHIMA LION」に業態転換しました。なお、7月以降の店舗閉鎖はありませんでしたので、当第3四半期末の店舗数は199店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期の外食事業は、売上高202億円（前年同期比3億円、2%増）となりましたが、採用難に伴う募集費などの人件費や積極的な新規出店による開店経費の増加などにより、営業利益3億円（前年同期比0億円、11%減益）となりました。

【不動産事業】

不動産業界は、首都圏を中心にオフィスビル空室率の低下が進み、賃料水準も都心の大型ビルを中心に上昇傾向にあります。一方、地方都市においては、市況は全般的に停滞が続いていると見られます。

当社においては、このような市場環境の中で、「恵比寿ガーデンプレイス」を主とする賃貸オフィスビルにおいて、高稼働率の維持と賃料の増額改定に努めました。また「恵比寿ガーデンプレイス」「サッポロファクトリー」では、各種イベント・フェアの開催やお客さまへのサービス向上と販売促進に努め、集客力の強化を図りました。コスト面では、ガス料金、建築費等の上昇がありましたが、このような売上増進策をとりつつ、省エネルギー対策をはじめとしたコスト削減にも鋭意取り組んできました。

スポーツ事業においては、本年よりフル稼働した「パル川口」（川口市）の業績が順調に推移しています。

さらに、当社では新たな不動産開発を進めてきています。9月に中央区銀座にホテルをキーテナントとする商業ビル「STRATA GINZA（ストラータギンザ）」が竣工しました。また、札幌市内にサッポロファクトリーの新たな商業・業務ビル「フロンティア館」とフィットネス&スパ「パル札幌」の開業、スポーツ施設「スウィング89」の増設（いずれも11月に完了予定）を控えており、この他「学生向け賃貸マンション（仙台市・福岡市）」などの建設も進めています。

以上の結果、当第3四半期の不動産事業は、不動産賃貸事業における稼働率アップ等の寄与により、売上高168億円（前年同期比6億円、4%増）、営業利益49億円（前年同期比5億円、12%増益）となりました。

2. 連結キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、333億円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の11億円、減価償却費による161億円に加え、売上債権の減少額110億円等による増加と仕入債務の減少額7億円等による減少の結果であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、194億円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が140億円、無形固定資産の取得による支出が26億円となったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、326億円の支出となりました。これは主に、社債の発行による収入が99億円、長期借入金による調達67億円がある一方、社債の償還による支出が100億円、長期借入金の返済による支出が352億円となったことによるものです。

以上の結果、当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は60億円となりました。

(要約) 四半期連結貸借対照表

区分	前第3四半期末 (平成17年9月30日)		当第3四半期末 (平成18年9月30日)		対前第3四 半期末比	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成17年12月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)							
I 流動資産							
1 現金及び預金	29,173		6,660		△22,512	25,442	
2 受取手形及び売掛金	59,269		60,646		1,376	71,726	
3 たな卸資産	23,893		22,467		△1,425	21,927	
4 その他	16,652		15,095		△1,557	21,299	
5 貸倒引当金	△264		△167		97	△302	
流動資産合計	128,724	23.6	104,702	19.8	△24,022	140,093	24.8
II 固定資産							
1 有形固定資産	344,327		345,366		1,038	340,771	
2 無形固定資産	1,940		2,646		706	2,008	
3 投資その他の資産	69,472		76,018		6,545	80,972	
固定資産合計	415,741	76.4	424,031	80.2	8,290	423,752	75.2
資産合計	544,465	100.0	528,733	100.0	△15,732	563,845	100.0
(負債の部)							
I 流動負債							
1 支払手形及び買掛金	35,033		31,870		△3,163	32,586	
2 短期借入金及び1年 内償還社債	69,818		81,818		12,000	62,971	
3 未払酒税	25,838		38,828		12,990	38,260	
4 その他	76,312		87,742		11,430	86,377	
流動負債合計	207,001	38.0	240,260	45.5	33,258	220,197	39.0
II 固定負債							
1 社債	49,720		29,720		△20,000	44,219	
2 長期借入金	122,070		79,051		△43,019	113,532	
3 退職給付引当金	17,019		16,206		△813	17,195	
4 その他	52,856		56,457		3,601	57,288	
固定負債合計	241,667	44.4	181,435	34.3	△60,231	232,236	41.2
負債合計	448,668	82.4	421,695	79.8	△26,972	452,434	80.2
(少数株主持分)							
少数株主持分	—	—	—	—	—	—	—
(資本の部)							
I 資本金	43,831	8.0	—	—	△43,831	46,595	8.3
II 資本剰余金	36,245	6.7	—	—	△36,245	39,010	6.9
III 利益剰余金	7,102	1.3	—	—	△7,102	9,962	1.8
IV その他有価証券評価差 額金	9,309	1.7	—	—	△9,309	16,502	2.9
V 為替換算調整勘定	△264	△0.0	—	—	264	△198	△0.0
VI 自己株式	△427	△0.1	—	—	427	△461	△0.1
資本合計	95,797	17.6	—	—	△95,797	111,410	19.8
負債、少数株主持分及 び資本合計	544,465	100.0	—	—	△544,465	563,845	100.0

区分	前第3四半期末 (平成17年9月30日)		当第3四半期末 (平成18年9月30日)		対前第3四 半期末比	前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成17年12月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		増減 (百万円)	金額 (百万円)
(純資産の部)							
I 株主資本							
1 資本金	—	—	46,595	8.8	46,595	—	—
2 資本剰余金	—	—	39,013	7.4	39,013	—	—
3 利益剰余金	—	—	8,554	1.6	8,554	—	—
4 自己株式	—	—	△521	△0.1	△521	—	—
株主資本合計	—	—	93,641	17.7	93,641	—	—
II 評価・換算差額等							
1 その他有価証券評価 差額金	—	—	13,596	2.5	13,596	—	—
2 為替換算調整勘定	—	—	△201	△0.0	△201	—	—
評価・換算差額等合計	—	—	13,395	2.5	13,395	—	—
純資産合計	—	—	107,037	20.2	107,037	—	—
負債純資産合計	—	—	528,733	100.0	528,733	—	—

(要約) 四半期連結損益計算書

区分	前第3四半期 (自 平成17年1月1日 至 平成17年9月30日)		当第3四半期 (自 平成18年1月1日 至 平成18年9月30日)		対前第3四 半期比	増減 (百万円)	前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)		
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)			金額 (百万円)	百分比 (%)	
I 売上高		334,983	100.0		319,820	100.0	△15,162	453,671	100.0
II 売上原価		229,536	68.5		220,347	68.9	△9,189	311,191	68.6
売上総利益		105,446	31.5		99,473	31.1	△5,972	142,480	31.4
III 販売費及び一般管理費		100,376	30.0		95,559	29.9	△4,816	132,179	29.1
営業利益		5,070	1.5		3,913	1.2	△1,156	10,300	2.3
IV 営業外収益									
1 受取利息及び配当金	549			631				823	
2 その他	959	1,509	0.5	1,076	1,707	0.5	197	1,245	2,069
V 営業外費用									
1 支払利息	2,718			2,223				3,495	
2 たな卸資産廃棄損	611			518				1,183	
3 持分法による投資損失	28			115				84	
4 その他	596	3,955	1.2	598	3,456	1.0	△499	1,003	5,767
経常利益		2,624	0.8		2,165	0.7	△459	6,602	1.5
VI 特別利益									
1 固定資産売却益	858			64				2,728	
2 投資有価証券売却益	1,078			34				1,276	
3 貸倒引当金戻入益	—			43				—	
4 関係会社株式売却益	—			101				—	
5 自動販売機補助金収入	—			47				—	
6 過年度固定資産売却益 修正額	—			95				523	
7 その他	95	2,032	0.6	21	408	0.1	△1,623	476	5,006
VII 特別損失									
1 固定資産除却損	1,758			963				3,160	
2 固定資産圧縮損	279			—				279	
3 減損損失	22			225				837	
4 投資有価証券評価損等	329			260				400	
5 貸倒引当金繰入額	331			—				69	
6 その他	22	2,743	0.8	—	1,449	0.5	△1,294	288	5,034
税金等調整前四半期 (当期) 純利益		1,912	0.6		1,124	0.3	△788	6,573	1.5
法人税、住民税及び事 業税	404			687				29	
法人税等調整額	737	1,142	0.4	17	705	0.2	△436	2,913	2,943
四半期(当期) 純利益		770	0.2		418	0.1	△352	3,629	0.8

四半期連結剰余金計算書及び四半期連結株主資本等変動計算書
 四半期連結剰余金計算書

科目	前第3四半期 (平成17. 1. 1 から 平成17. 9. 30まで)	前連結会計年度の 連結剰余金計算書 (平成17. 1. 1 から 平成17. 12. 31まで)
	百万円	百万円
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	36,241	36,241
資本剰余金増加高	3	2,768
新株予約権の行使による 新株の発行	—	2,764
自己株式処分差益	3	4
資本剰余金期末残高	36,245	39,010
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	8,108	8,108
利益剰余金増加高	770	3,629
四半期(当期)純利益	770	3,629
利益剰余金減少高	1,775	1,775
配当金	1,775	1,775
利益剰余金期末残高	7,102	9,962

四半期連結株主資本等変動計算書

当第3四半期（自平成18年1月1日 至平成18年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成17年12月31日 残高	46,595	39,010	9,962	△461	95,107
第3四半期中の変動額					
剰余金の配当			△1,826		△1,826
四半期純利益			418		418
自己株式の取得				△65	△65
自己株式の処分		3		5	8
株主資本以外の項目の第3四半期中の変動額（純額）					
第3四半期中の変動額合計	－	3	△1,408	△60	△1,465
平成18年9月30日 残高	46,595	39,013	8,554	△521	93,641

（単位：百万円）

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘 定	評価・換算差額 等合計	
平成17年12月31日 残高	16,502	△198	16,303	111,410
第3四半期中の変動額				
剰余金の配当				△1,826
四半期純利益				418
自己株式の取得				△65
自己株式の処分				8
株主資本以外の項目の第3四半期中の変動額（純額）	△2,905	△2	△2,907	△2,907
第3四半期中の変動額合計	△2,905	△2	△2,907	△4,373
平成18年9月30日 残高	13,596	△201	13,395	107,037

(要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期 (自 平成17年1月1日 至 平成17年9月30日)	当第3四半期 (自 平成18年1月1日 至 平成18年9月30日)	前連結会計年度の 要約連結キャッシュ・ フロー計算書 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動による キャッシュ・フロー			
1 税金等調整前四半期 (当期) 純利益	1,912	1,124	6,573
2 減価償却費	16,458	16,124	22,075
3 減損損失	22	225	837
4 退職給付引当金の増減額 (減少:△)	361	△988	537
5 貸倒引当金の増減額 (減少:△)	357	△293	19
6 受取利息及び受取配当金	△549	△631	△823
7 支払利息	2,718	2,223	3,495
8 固定資産売却益	△858	△64	△2,728
9 固定資産売却除却損	1,758	963	3,160
10 投資有価証券売却益	△1,055	△34	△1,276
11 投資有価証券評価損等	268	260	400
12 関係会社株式売却益	—	△101	—
13 固定資産圧縮損	279	—	279
14 売上債権の減少額	20,581	11,038	8,138
15 たな卸資産の増減額 (増加:△)	△838	△516	1,127
16 仕入債務の増減額 (減少:△)	223	△703	△2,233
17 未払酒税の増減額 (減少:△)	△17,541	568	△5,119
18 その他	8,537	3,636	11,913
小計	32,635	32,831	46,374
19 利息及び配当金の受取額	659	674	822
20 利息の支払額	△2,743	△2,176	△3,591
21 法人税等の支払・還付額 (支払:△)	△4,222	2,008	△4,528
営業活動による キャッシュ・フロー	26,329	33,338	39,077
II 投資活動による キャッシュ・フロー			
1 定期預金の預入 による支出	△15,476	△1,240	△16,110
2 定期預金の払戻 による収入	—	1,226	15,502
3 投資有価証券の取得 による支出	△491	△1,069	△634
4 投資有価証券の売却 による収入	1,969	61	2,235
5 有形固定資産の取得 による支出	△6,695	△14,035	△10,718
6 有形固定資産の売却 による収入	2,662	64	6,921
7 無形固定資産の取得 による支出	△799	△2,607	△1,786
8 長期貸付金の実行 による支出	△635	△37	△647
9 長期貸付金の回収 による収入	410	445	568
10 その他	△2,378	△2,232	△3,007
投資活動による キャッシュ・フロー	△21,432	△19,424	△7,675

	前第3四半期 (自 平成17年1月1日 至 平成17年9月30日)	当第3四半期 (自 平成18年1月1日 至 平成18年9月30日)	前連結会計年度の 要約連結キャッシュ・ フロー計算書 (自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
Ⅲ 財務活動による キャッシュ・フロー			
1 短期借入金の減少額	△2,350	△2,124	—
2 長期借入れによる収入	8,000	6,700	12,500
3 長期借入金の返済 による支出	△23,895	△35,283	△36,129
4 社債の発行による収入	—	9,960	—
5 社債の償還による支出	△30,000	△10,000	△40,000
6 配当金の支払額	△1,771	△1,823	△1,782
7 その他	△87	△57	△120
財務活動による キャッシュ・フロー	△50,104	△32,627	△65,533
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る 換算差額	112	△1	173
Ⅴ 現金及び現金同等物の 減少額	△45,094	△18,714	△33,957
Ⅵ 現金及び現金同等物の 期首残高	58,706	24,748	58,706
Ⅶ 現金及び現金同等物の 期末残高	13,611	6,033	24,748

セグメント情報

(事業の種類別セグメント情報)

摘要	前第3四半期					平成17. 1. 1から 平成17. 9. 30まで		
	酒類事業 (百万円)	飲料事業 (百万円)	外食事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	250,086	48,495	19,832	16,145	423	334,983	—	334,983
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	3,701	232	—	1,604	13	5,552	(5,552)	—
計	253,788	48,728	19,832	17,750	436	340,536	(5,552)	334,983
営業費用	251,303	49,509	19,444	13,309	541	334,108	(4,195)	329,913
営業利益又は営業損失(△)	2,485	△781	388	4,440	△104	6,427	(1,357)	5,070

摘要	当第3四半期					平成18. 1. 1から 平成18. 9. 30まで		
	酒類事業 (百万円)	飲料事業 (百万円)	外食事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	238,621	44,049	20,230	16,803	116	319,820	—	319,820
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	4,510	215	—	1,979	6	6,712	(6,712)	—
計	243,132	44,264	20,230	18,782	123	326,532	(6,712)	319,820
営業費用	242,574	44,827	19,883	13,798	118	321,201	(5,295)	315,906
営業利益又は営業損失(△)	557	△563	346	4,984	5	5,330	(1,416)	3,913

摘要	前連結会計年度 平成17. 1. 1 から 平成17. 12. 31まで							
	酒類事業 (百万円)	飲料事業 (百万円)	外食事業 (百万円)	不動産事業 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	341,077	63,896	26,331	21,696	669	453,671	—	453,671
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	4,974	342	—	2,136	24	7,477	(7,477)	—
計	346,052	64,239	26,331	23,832	693	461,149	(7,477)	453,671
営業費用	339,497	64,932	25,779	17,992	823	449,025	(5,654)	443,371
営業利益又は営業損失(△)	6,555	△692	551	5,839	△129	12,123	(1,823)	10,300

(注) (1) 事業区分の方法は、日本標準産業分類を参考にし、各事業の営業内容の類似性により区分しております。

(2) 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類事業	ビール・発泡酒等・ワイン・ウイスキー・焼酎他・物流・プラント・アグリ
飲料事業	飲料水
外食事業	ビヤホール・レストラン
不動産事業	不動産賃貸・不動産販売・商業施設運営・ユーティリティ供給・スポーツ施設運営
その他	花卉販売

(3) 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、前第3四半期 1,460百万円、当第3四半期 1,492百万円、前連結会計年度 1,938百万円であります。これは、持株会社である当社で発生した費用のうち、事業会社管理・運営に係わる費用であります。

(4) 会計方針の変更

(当第3四半期)

当社グループが平成18年2月に発表した『サッポログループ新中期経営計画』（2006年～2008年）において、スポーツ施設運営事業は、今後、グループで保有している不動産活用によって事業基盤を強化していくことと致しました。このため、従来、「その他」に含めておりましたスポーツ施設運営事業は、当社グループの管理会計上の区分を「不動産事業」に変更しております。当社は、この管理会計上の区分にあわせ、スポーツ施設運営事業を「不動産事業」に含めて表示することと致しました。

なお、この事業区分の変更に伴い、当第3四半期は「不動産事業」の売上高が524百万円増加、営業利益が64百万円増加する一方、「その他」の売上高が524百万円、営業利益が64百万円それぞれ減少しております。

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第3四半期における酒類・飲料事業の生産実績を示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高 (kl)	前年同期比 (%)
酒類事業 (ビール・発泡酒等)	613,629	△10.7
酒類事業 (ワイン・焼酎等)	24,138	91.5

(注) 本年4月より焼酎の生産を開始したことにより、酒類事業 (ワイン・焼酎等) の生産高が前年同期と比較して大幅に増加しております。

(2) 受注実績

当社グループ (当社及び連結子会社) ではほとんど受注生産を行っておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高 (百万円)	前年同期比 (%)
酒類事業	238,621	△4.6
飲料事業	44,049	△9.2
外食事業	20,230	2.0
不動産事業	16,803	4.1
その他の事業	116	△72.5
計	319,820	△4.5

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

【決算補足説明資料】

平成18年度第3四半期決算（連結要約）

四半期連結損益計算書（要約）

（単位：億円）

	平成17年度	平成18年度	増減	増減率
酒類事業	2,500	2,386	114	4.6%
飲料事業	484	440	44	9.2%
外食事業	198	202	3	2.0%
不動産事業	161	168	6	4.1%
その他	4	1	3	72.5%
売上高	3,349	3,198	151	4.5%
酒類事業	25	5	19	77.6%
飲料事業	8	5	2	-
外食事業	4	3	0	10.6%
不動産事業	44	49	5	12.2%
その他	1	0	1	-
全社	13	14	0	-
営業利益	50	39	11	22.8%
営業外収益	15	17	2	13.1%
営業外費用	39	34	5	12.6%
経常利益	26	21	4	17.5%
特別利益	20	4	16	79.9%
特別損失	27	14	13	47.2%
税引前利益	19	11	7	41.2%
当期純利益	7	4	3	45.7%

（連結）	平成17年度	平成18年度	増減	増減率
金融負債残高	2,416	1,905	510	21.1%
設備投資（支払ベース）	75	166	91	122.1%
減価償却費	165	161	3	2.0%

販管費明細

（単位：億円）

	平成17年度	平成18年度	増減	増減率
販売費及び一般管理費計	1,003	955	48	4.8%
販売奨励金手数料	254	268	13	5.5%
広告宣伝費	179	155	24	13.4%
給料手当・賞与	135	136	0	0.4%
退職給付費用	27	20	6	24.4%
その他	406	374	31	7.8%

平成18年度第3四半期決算（連結）

主な利益増減要因

は利益減少要因

（単位：億円）

主な増減要因	増減	備考	
		内容	金額
ビール等	19		
限界利益	65	数量増減・品種構成 原材料費 製造原価削減 その他	71 2 6 2
固定費その他	46	販売費減 システム関連費用 その他	33 0 13
ワイン洋酒	2	数量増減・品種構成 コスト削減	1 1
その他	2	その他	2
酒類事業	19		
飲料事業	2	数量増減・品種構成 原価削減 その他コスト削減	10 7 5
外食事業	0	売上増 コスト削減	0 0
不動産事業	5	販売 賃貸	1 4
その他事業	1	その他	1
全社	0	間接部門費用	0
営業利益増減額	11		
営業外収支	7	金融収支（ 21 15） その他（ 7 6）	6 1
経常利益増減額	4		
特別損益	3	過年度売却益修正額（ 0 1） 固定資産売却益（ 8 0） 減損損失（ 0 2） 固定資産除却損（ 17 9） 投資有価証券売却益（ 10 0） 投資有価証券評価損等（ 3 2） 関係会社株式売却益（ 0 1） その他（ 5 1）	1 8 2 8 10 1 1 6
法人税等増減額	4		
当期純利益増減額	3		